

We Love
Eye

アイは「I=私」
アイは「Eye=目」
アイは「愛=Love」
アイメイトは、私の、
愛する、目の仲間

視覚障害者の方の
優しく頼もしいパートナー

mates



公益財団法人
アイメイト協会
since 1957



盲導犬が日本に生まれた日。

1948年、塩屋賢一（アイメイト協会創設者）は盲導犬の育成を志し、目隠しの生活を体験しながら盲導犬の育成方法を模索し始めました。そして1957年、国産第一号の盲導犬チャンピイが誕生しました。（写真は東京・吉祥寺で歩行訓練をする塩屋賢一とチャンピイ。塩屋はアイマスクがわりに墨塗りのパイロット用ゴーグルをつけています）

そして今、アイメイトはブランドに。

盲導犬チャンピイの誕生から50数年、視覚障害者とアイメイトとのペアは1000組を超えるまでになりました。今、日本には盲導犬育成団体が複数あり、それぞれに工夫をして犬の訓練や視覚障害者への歩行指導を行っています。そこで、ひと口に「盲導犬」や「盲導犬を使った歩行」といっても、その言葉が指す内容は団体によって異なります。《アイメイト協会》が指す「盲導犬」や「盲導犬を使った歩行」とは、「全く視力がない方が、白杖や同伴者を伴うことなく、ご本人と犬だけで単独歩行できること」です。好きな時に、どこへでも自由に出掛けられる。この自立した自由な歩行を通して、視覚障害者が抱える問題を解決するお手伝いをしていくことが《アイメイト協会》の使命。アイメイトブランドのめざすところです。



アイメイト協会のロゴマーク

アイメイト協会のロゴマークです。犬はジャーマン・シェパードです。国産盲導犬第一号のチャンピイもシェパードでした。ロゴに犬だけではなく人も描かれているのは、「視覚障害者の自立を支援する」という当会の精神が込められています。

視覚障害の方の「目」となって。

街中で、目の不自由な方がハーネスを付けた犬と歩いている姿を見かけたことはありませんか。アイメイト[®]が目となって、視覚障害の方の自立と社会参加を支えているシーンです。今では、アイメイトは電車やバス、飛行機にさえ同乗でき、職場・ホテル・レストランでも寄り添うことが認められるようになりました。信頼で結ばれた視覚障害者とアイメイトを、ますます温かく受け入れ、支援する社会になってほしいと思います。

※アイメイト：当会出身の盲導犬。視覚障害者と犬との信頼関係や使用者同士の連帯、アイメイト協会出身者・出身犬としてのプライドといった意味を含め、「アイメイト」と呼んでいます。アイメイトは私(I)の愛(Love)する目(Eye)の仲間です。

信頼の絆で結ばれたアイメイトと歩けば安心。姿勢よく、スマートに歩いているため、目が見えると思われ、道を聞かれたりすることも…。



飛行機で、国内はもとより海外へと出掛ける使用者も多くなっています。機内では使用者とアイメイトは常に一緒。座席の足元にいます。



アイメイトは乗り物に自由乗車でき、運賃もかかりません。乗車の際、まず犬は開いたドアの前のホームの縁で止まります。使用者はホームの縁を足で確認し「ゴー」の指令を出して犬が進んでから歩き出すため、安全に乗車できます。



スーパー等への買い物もアイメイトと一緒に。ただし、商品がある場所や価格についてはわからないため、店内では店員さんと同行してもらい、商品情報を伝えてもらいます。

もちろん、バスの場合も自由乗車。使用者は障害者割引で半額の料金、アイメイトは無料です。



電車の改札では、犬が鼻先を切符投入口のところへ付けるように訓練してあります。使用者は犬の鼻先を確認すれば、切符投入ヤスिकाを当てる位置がわかります。

アイメイト協会では月に1回、一般の方々の見学日を設けています。参加者にはアイマスク装着で訓練犬と歩き、目が見えなくても歩けるということやどのような手助けが必要なのかを体感していただけます。



いつもの道でも雪が降ると状況が一転します。目安にしていた段差が探せなかったり、音が雪に吸収されて距離感がくるったり…。そんな時、アイメイトは信頼されている幸せを感じ、それに応えます。

ボランティア家庭で産声をあげます。

アイメイト協会が独自に確保した優秀な犬で繁殖は計画的に行われています。雌の場合2〜7歳、雄の場合は2〜8歳くらいまでを繁殖犬としています。繁殖を受け持つのはボランティアのご家庭。預かった犬に仔犬を産ませます。生まれた仔犬には願いを込めて名前をつけ、生後2ヵ月になるまで面倒を見てもらいます。



母親犬は繁殖家庭で出産します。1回のお産で6〜8頭産むケースが多いようです。仔犬は生後2ヵ月までは母親や兄弟と過ごします。繁殖家庭はボランティアですが、協会の仕事を担ってくださる大切な方々です。

素質に恵まれた両親を選んで、計画的に繁殖。そのため、生まれた仔犬の多くはアイメイトとして活躍しています。アイメイトに向く素質としては、まじめでかげひなたなく、穏やかなことです。



繁殖ボランティア家庭で生後2ヵ月が経過した仔犬は、アイメイト職員が迎えに行きます。母親と別れ、1頭ずつ、今度は飼育ボランティア家庭に預けられます。

家族の一員として育てられます。

生後2ヵ月を過ぎた仔犬は、飼育ボランティアの家庭に依頼して約1年間育ててもらいます。小さなお子さんやお年寄りなどが一緒に暮らしている家庭で、さまざまな人たちに触れ、愛情をたっぷり注がれる毎日。そんな環境の中で、社会への適応性にすぐれ、情緒の安定した犬に成長していきます。

将来、アイメイトになるために、ご家族の愛情に包まれて育ちます。



仔犬は、家族全員が犬の飼育に賛成で、アイメイトのことを理解し、協力してくださるボランティアのご家庭で、約1年間を過ごします。



飼育ボランティアのご家族は、訓練初期段階には、数回犬と再会していただけます。訓練が進むにつれ、担当指導員との深いコミュニケーションが必要のため、面会は控えています。

犬も使用者も訓練・指導を重ねて 真のパートナーに。

そして1歳を少し過ぎた頃、育ててくれた家族のもとを離れ、アイメイト協会での訓練が始まります。およそ120日にわたる訓練で、アイメイトとしての心技体を備えていきます。厳しい基準をクリアしたアイメイト候補犬は、主人となる視覚障害者と4週間の合宿制の歩行指導に入ります。歩行指導は実際に街中で行き、終了時にはなんと約120kmもの行程になります。歩行指導期間中にはいくつもの試験が行われ、卒業が決まるとどんなに遠くの人でも本人とアイメイトだけで自宅に帰ります。卒業後はアイメイトをパートナーにアクティブな毎日が待っています。



犬には「利口な不服従」も教えます。主人に進めと指示されても、危険が近づいている時は、その指示に従わないよう訓練します。指導員が実際に車にぶつかって、危ないことを教えます。



主人が落としたものを拾ってくるのも基礎訓練のひとつ。「フェッチ」と言えば、落し物を犬がくわえて左脇に、「アウト」と言えば離します。



犬には曲がり角で止まることを教えています。主人は目的地までの地図を頭に描き、曲がり角を数えながら歩きます。歩道上では段差があると犬が止まるため、右足を出して段差を確認します。



犬自身はくくれても主人がぶつかる高さを教える訓練。犬の目の位置から、人間の頭の高さを意識させるのは、とても難しい高度な訓練です。

歩行指導期間の4週間、視覚障害者の方は協会に泊まり込みで指導を受けます。歩行以外にも、日常生活で犬をどのように扱ったら良いのかを学びます。



1日に5~6回、指導員が犬舎の犬をグランドに出し、排泄をさせます。犬の健康状態をよく観察して管理に役立っています。

訓練の終盤になると、担当指導員はアイマスクをつけ、安全に歩けるかの確認をします。



アイメイトのシャンプーは主人が行います(ブラッシングは毎日)。社会参加のためには普段から、汚れていないか臭いがしないか、常に気をつけています。



鼻先でドアノブの位置を教えるよう、犬を訓練してあります。「ドア」と指示して犬が止まったら、その鼻先をたどれば、手探りすることなくドアノブを見つけられます。

階段の手前で止まるように訓練してあります。犬が止まったら足を出して段差を確認。「ゴー」の指示で歩き出します。



アイメイトはエスカレーターも乗り、視覚障害者でも安全に利用できます。



切符の券売機に鼻先を向けて教えます。タッチ式の券売機にはテンキーが付いていて、ボタンを押すと音声がかかります。購入金額を入力し、お金を入れると切符が出てきます。



使用者の必要に応じて、新たな誘導物を犬に教える方法も、指導します。

街中には様々な障害物があります。犬は主人の背丈や幅を把握し、周囲に気を配りながら安全に誘導します。



踏切は視覚障害者にとって、最も恐い場所のひとつ。警報器が鳴っている時、自分の居る場所が踏切の内側か外側かわからないからです。アイメイトと一緒に実際に体験しながら練習します。

信号を横断するときは、手を挙げて車の運転者に意志表示をします。雨や雪の日でも歩行指導は実施。車の走行音の違いを知る良い経験になるからです。



雨の日の歩行後はタオルで犬を拭きます。犬の衛生や健康面はもとより、感謝とねぎらいの気持ちも伝わります。

「チェア」と指示すれば、犬は空いているイスの座面に頸を乗せて位置を教えます。電車などで空席がわからなくても、アイメイトの目が探してくれます。



アイメイト同士お互いに干渉しません。段差や道の分かれ目で犬が止まるので、主人は足や耳で状況判断。次の指示を犬に出します。

人混みの中、たとえば混雑する交差点のようなところでも、安全に誘導します。主人が安心して歩けるのも犬との信頼関係がしっかりと構築されているからです。



歩行指導中は銀座でも試験を行います。無事に歩き終えて、ゴールの三越前で待っていた理事長や職員と握手。「一人で銀座を歩けた」ことは大きな自信となります。



自分の前を横切っていく車の音が聞こえる時は「信号が赤」、進行方向に車の動く音が聞こえる時は「信号が青」。主人は車の音で信号を判断し、犬に指示を出して進みます。



歩行指導テストの終了後は、日本初の本格インド料理店「ナイルレストラン」にて昼食。国内で最も古くからアイメイトの入店を受け入れてくださったレストランです。

歩行指導の最終日には卒業式を行って見送ります。理事長から使用者証を授与され、しっかりと握手。4週間の指導を糧に、これからパートナーとの新たな日々が始まります。

アイメイトには 適さなくても 家庭犬としては最高。

訓練の結果、アイメイトには向かないと判断した犬は、希望する家庭に引き取られます。血筋もよく、よくつけられており、家庭犬としては最高と喜ばれています。



リタイアしても犬には 幸せな日々が・・・

身体的な衰えが見られたら、アイメイトは永年の大役から引退し、大好きな家庭に引き取られます。家族の一員として、愛情と優しいいたわりの中でのんびりと暮します。

卒業後も協会が フォローアップを継続。

歩行指導中には専属の獣医師による健康診断や犬の健康管理指導を実施しています。卒業後、卒業生がアイメイトの健康面や歩行面で困った時には協会に連絡をします。問題解決の為に「フォローアップサービス」も協会の大切な仕事です。



生を終えても 手厚く供養。

東京・府中市の慈恵院にアイメイトたちのお墓があります。使用者やアイメイト職員、協力して下さっている方々が訪れ、墓碑の前に花の絶える時がありません。

《アイメイト協会》

協会概要

名称	公益財団法人アイメイト協会 The Eye mate Inc.
設立	1957年 事業開始 1971年10月10日法人化
所在地	東京都練馬区関町北5丁目8番7号

アイメイト協会の目的と主要な事業内容

(公財)アイメイト協会は創設者の塩屋賢一により1957年に国産盲導犬第一号ペアを送り出した日本の盲導犬事業の先駆者で、わが国最大の実績をあげています。アイメイト協会では、正規の訓練を受けたアイメイト[®]を使用することにより、視覚障害者の社会参加を助け、社会に適應する手立てとしての自主歩行を成功させることを最大の目的とし、主に以下の事業を行っています。

- 1 アイメイトの育成訓練及び研究開発
- 2 アイメイトによる視覚障害者の歩行指導並びに日常生活訓練
- 3 アイメイトの使用に関する各種相談及び歩行指導員の養成
- 4 アイメイトに関する啓発
- 5 その他、目的達成に必要な諸事業

※アイメイト:当会出身の盲導犬。視覚障害者と犬との信頼関係や使用者同士の連帯、アイメイト協会出身者・出身犬としてのプライドといった意味を含め、「アイメイト」と呼んでいます。アイメイトは私(I)の愛(Love)する目(Eye)の仲間です。

◎アイメイト育成にご協力いただける場合は、下記口座をお願いします。

運営費:みずほ銀行 吉祥寺支店(普)1277193 公益財団法人 アイメイト協会
郵便振替口座 00160-2-165100 公益財団法人 アイメイト協会

サポート会員(年会費)

法人会員 一口 50,000円(何口でも)

個人会員 一口 5,000円(何口でも)

郵便振替口座 00140-7-110706 公益財団法人 アイメイト協会サポート会

公益財団法人アイメイト協会は、租税特別措置法施行令第26条の28の2第1項に規定する要件を満たしている事を内閣総理大臣から証明・認定を受けています。

●ご寄付に関する税制上の優遇措置について

税制上の優遇措置

公益財団法人アイメイト協会に対するご寄付金(サポート会費を含む)は、そのすべてを当協会が行う公益目的事業のために役立たせて頂きますので税制上の優遇措置が適用されます。

個人の場合 所得税(国税)について、確定申告の際に「寄付金控除」を受けられます。なお、H23年7月1日より、従来の「所得控除」に加え「税額控除」のどちらかの、より優遇される方を選択する事ができるようになりました。

税制上の優遇措置を受けるための手続き

当会が発行したご寄付金の領収書・税額控除に係わる証明書の写し(領収書と共に当会より送付します)をもって申告してください。

法人の場合 寄付金の損金算入額と同額以上が別枠として、損金算入する事ができます。

税制上の優遇措置を受けるための手続き

決算時に、当会が発行した寄付金の領収書・税額控除に係わる証明書の写しを添付してください。

※寄付金控除制度等の詳細については、お近くの税務署等にお問い合わせください。

〒177-0051 東京都練馬区関町北5-8-7 TEL.03-3920-6162 FAX.03-3920-6063

公益財団法人 アイメイト協会

<http://www.eyemate.org/> e-mail: contact@eyemate.org